



岩高同窓会報

発行所
岩ヶ崎高等学校同窓会
宮城県栗原市栗駒
中野愛宕下1の3
TEL (0228) 45-2266
FAX (0228) 45-2267
印刷 タカハシ印刷

題字 葛岡 重利 (S41 卒)
写真 佐々木勝行 (S38 卒)



前向きに生きる



同窓会会長

蘇武 徳行

(昭47年卒)

三月に新たに二十五名の若き同窓会員を迎えました。同窓会というと、年配の人間の集まりと捉えられがちですが、こうした若い人材にも、積極的に同窓会の運営に携わり、年齢を超えた幅広い交流を通して自己の研鑽を深めると同時に、岩ヶ崎高校を盛り立ててもらいたいものです。

さて、私は岩ヶ崎高校を卒業して、早や五十有余年、半世紀以上を過ごしてきました。この間、多くのことに挑戦し、幾多の試練をも経験しました。もちろん中には挫折し深く傷つくこともありましたが、しかし、それに屈せず、前向きに生きることが前進になることと信じ、苦い経験も糧にして生きるように心がけてきました。そういう姿勢で人生を生きてほしいことを、同窓生の皆さん、特に若い方々に伝えたいと思っています。

この世の中、どんなことにも抜け道や近道はありません。これは今に始まったこ

とではありません。しかし、今はそうした道を探すことに社会全体がますます躍起になっているように感じます。そういう今だからこそ、真面目に実直に正攻法で挑むことが大事です。ずるく、賢く、うまく立ち回ったものが勝ちという世の中にはしたくありません。

同窓会が相互にそうした実直さを評価し、高め合う組織であることを願います。



岩高同窓会報に 寄せて



栗原市長

佐藤 智

宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、貴同窓会におかれましては、会報第46号のご発行、誠にありがとうございます。心よりお祝い申し上げます。

岩ヶ崎高等学校は、「尚志育英」の建学の精神のもと、志高く優れた生徒を育て、輩出されてきた長い歴史と伝統を有する、市内においても指折りの進学校であります。

さて、栗原市は今年、10町村の合併により誕生してから20周年という節目の年を迎えました。この間、平成20年岩手・宮城内陸地震、平成23年東日本大震災という二度にわたる大きな震災、度重なる自然災害や新型コロナウイルス感染症の影響など、市民の皆様と様々な困難を乗り越え、安全・安心に暮らせるまちづくりを

目指し、着実に歩みを進めてきたところでございます。

現在、市は次のステージへと向かう重要な時期にあります。中でも、人口減少は喫緊の課題であり、10年後、20年後を見据えた持続可能な行政運営が求められております。

同窓会の皆様におかれましても、少子高齢化が進む状況の中で、新規会員の加入促進に向け、様々なご努力を重ねておられることと存じます。市におきましても、第二子以降の保育料の無料化や、企業誘致に向けた新たな工業団地の整備、くりこま高原駅周辺のまちづくりを推進し、地域の活性化を図ってまいります。

明日を担う子どもたちに豊かな美しいくりはらを引き継ぐため、「住み続けたい」「いつか帰りたい」と思っていただけるまちづくりを今後進めてまいりますので、引き続き本市の取り組みに対するご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、岩ヶ崎高等学校同窓会が、世代や地域を超えた交流の場として今後ますますご発展されますこと、ならびに同窓生の皆様の一層のご活躍を心より祈念申し上げ、祝辞とさせていただきます。

会報に寄せて



学校長

原畑 聖子

同窓会の皆様には、ますます御清栄のこととお喜び申し上げます。また、常日頃より母校の教育活動に御理解と温かい御支援を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、私こと、この四月の異動で本校に赴任いたしました。栗原地区での勤務は初めてです。生徒たちの素直で真っ直ぐな眼差しに応えようと、新たな気持ちで校務運営にあたっております。どうぞよろしく願っています。

本校は、おかげさまで創立八十四年目を迎えております。四月七日の入学式には、新制服に身を包んだ一年生十八名を迎え、全校五十五名で今年度の教育活動がスタートしました。近年の生徒数の減少は、本校にとつて大きな課題であります。少人数ならではの、ひとり一人を大切にしたい丁寧な教育を実践しております。

す。

令和六年度卒業生二十五名の進路を見ますと、国公立大学に十一名、私立大学に延べ二十三名の合格、県職員（学校事務）合格など、それぞれの進路に応じた指導が実を結び、県内有数の進路実績を収めています。

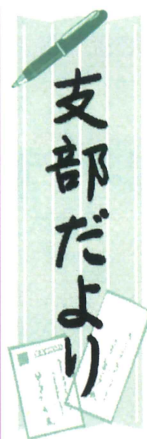
県の事業である「地域進学重点校改革推進事業」改革推進校の指定も三年目となりました。地域と連携した探究活動を中心とする教育活動は、生徒の主体性や自己表現力の育成につながっています。

部活動においても、令和六年度は科学部が全国総合文化祭に、また軽音楽部が二年連続全国大会に出場するなど、素晴らしい活躍を見せてくれています。

今後も、地域に根ざした魅力ある学校づくりを進めて参りますので、引き続き皆様の御支援・御協力をよろしくお願い申し上げます。



青年海外協力隊とネパール



東京支部長

長沼 和秋

(昭53年
岩高卒)

第68回 東京岩高会総会は、令和6年11月23日 蘇武徳行同窓会会長、村上孝志校長先生、豊嶋潤仙台支部長など48名のご出席を頂き開催致しました。会を開催する度々に後藤仁先輩(S・45)から、とても多くのスィーツポテトを頂き、今回も全出席者にお配りさせて頂きました。特別プログラムは、三浦修さん(S・56年国立国会図書館)による「国立国会図書館『デジタルでファミリーヒストリー』」、国立国会図書館のデータ検索で先祖や家族の歴史や軌跡を知り得ることが出来るかもしれない興味深いお話でした。

私と「ネパール」との繋がりは、1984年から2年間 青年海外協力隊(現JICA海外協力隊)で陸上競技のコーチとして派遣されたことに始まります。オリンピックに出場するマラソン選手の指導が主で、スピー

ド強化を行ったことで当時作られたバイクンタ選手のマラソン記録(2時間15分3秒)は40年間も破られていない大記録です。嘗て一緒に汗を流した選手達は今ではスポーツ協会要職にあり、旧友が主催するカトマンズマラソンの出場時には、皆温かく迎えてくれます。現在の首都カトマンズは人と車で溢れヒマラヤのイメージと異なりますが、素朴で人懐っこいネパールの国民性そしてどこか懐かしさを感じることに心が引かれています。



今年の東京岩高会総会は11月23日(日)。特別プログラムは、豊嶋潤さん(S・60)の「消防の実情」に係るお話、多くの方々のご出席をお待ちしております。

四十年ぶりの再会



仙台支部長

豊嶋 潤

(昭60年
岩高卒)

皆様お変わりございませんでしょうか。私、この春で勤務年数が四十年を経過しました。この間、異動は十五回で、勤務地も県内や大阪などを経験し、十六回目の異動で、四月から県庁で危機管理を担当することになりました。いつ発生するかかわからない自然災害などに対応すべく、アルコール摂取を断つという意気込みで業務に邁進していきたいと思いますが、意気込みと行動の若干のずれは見逃してください。とはいえ、皆さんも災害への日頃の備えを忘れずに対策してくださいね。

さて、支部長を引き受けたおかげだと思いますが、昨年は高校卒業後、四十年ぶりに先輩や同級生にお会いする機会にも恵まれました。とっても懐かしと思う一方で、四十年経っても当時のことを思い出し緊張してしまう自分がおかしくも思いました。サッカー部とバレー部の先輩は懇親会への参加は叶いませんでしたが、同級生とは懇親会で会うことができました。今年の大変うれしく思いました。

懇親会は大雪の日の開催となりましたが、二十九名の方に参加いただき、昨年を若干上回りました。

また、参加者も昭和四十年から平成二十九年卒まで幅広い年齢層の方々に参加いただいたことに対しまして感謝申し上げますとともに、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。参加者の集合写真は同窓会のホームページに掲載されておりますので、是非、見てみてくださいね(岩ヶ崎高校同窓会が検索してみてください)。来年の懇親会も二月第一週の金曜日である六日の開催を予定しておりますので、皆様、日程を空けておいてください。終わりに、岩ヶ崎高校同窓会と岩ヶ崎高校の益々の御発展と会員皆さまの御健勝と御多幸を心より御祈念申し上げます。



思い出の先生方

岩ヶ崎高校の思い出



元岩高教諭

酒井 広美

(平8〜平14)

校門を通過すると、春は白とピンクの「花みずき」が咲いていました。今でも、その景色は変わらないのでしょうか。

岩ヶ崎高校を最後に退職し、あれから約二十五年が経とうとしています。記憶は薄れつつありますが、この機会に思い出してみたいと思います。

ある日、職員室で玄関寄りにいた私に「酒井先生!! ホラッ!!」と、植木の茂みにでも隠れていたであろう蛇を持ち上げて見せた岩本校長先生。夏になると、岩ヶ崎の山車祭に岩高生が造った山車が参加したのは勿論ですが、保健室の千葉妙子先生を中心に有志の生徒達とゆかた姿で文字甚句の手踊りをしました。

秋には、強歩大会という行事があ

りました。文字地区まで往復約十キロメートルを歩き、タイムを競うものでした。少々苦しかったように思いますが、楽しかったです。その時日本最古の染色技術と言われる「正藍染」の技法の保持者として人間国宝に認定された千葉あやのさんの家の前を通ったことが思い出されます。十二月には修学旅行がありました。この年は沖縄でした。学校まで着てきたオーバーコートは置いて出発。沖縄に降り立った時、岩ヶ崎とは比べものにならない暖かさにある生徒が「ここは日本なの?」と言いました。

そうそう、あの頃、岩高生は通学



に今では廃止になった栗電を利用していました。田町駅から上野坂をたぐさんの岩高生が校舎を目指していました。その姿をもう見ることはありませんが、皆さん元気で通学していることでしょうね。

岩ヶ崎高校の思い出



元岩高教諭

鈴木 浩

(昭59〜平3)
(平22〜平25)

本校には、二度勤務しました。最初は昭和59年から七年間、卒業生を二度送り出しました。元気で優しい生徒ばかりで助けられました。中には、兄妹・姉妹と担任させてもらった生徒もいました。まだ若く力不足で十分な指導ができなかったことが悔やまれます。また、生徒会を担当しました。若高との定期戦、敗戦して若柳から岩高まで生徒諸君と歩いて帰ってきた思い出があります。歩くといえは強歩大会が始まったのもこの頃でした。走れない距離をと男子は30kmを超えたコースを設定したのですが、走って昼前に帰校した生

徒もいれば、途中の旧角ヶ崎小で昼食BBQと洒落こむ生徒もいました。文化祭、終わってその日のうちに授業ができる様、実行委員の諸君と片づけをしたことを思い出します。山車祭りに初参加したのもこの頃でした。

二度目は、平成22年から三年間教頭としての勤務でした。最初の勤務の時の生徒が保護者となり、入学式や卒業式で再会できたのはとても嬉しかったです。強歩大会は続いていましたが、当初の女子コースに男女統一されていました。熊の出没が騒がれる中の実施で心配しました。

山車祭りは、生徒数の減少もあり負担が大きく、参加が最後となってしまうしました。大きな行事としては70周年の記念事業を担当させてもらいました。また、在任中に読売新聞から問い合わせがありました。映画「男はつらいよ」第41作に出演した女子高生のその後を知りたいとのことでした。その女子高生のうちの二人が当時担任した子だったのです。不思議な縁を感じました。

少子化で在学生が減ってしまいましたが、二度の勤務とも落ち着いた学校生活を送っていると感じられる学校でした。

近況報告



ああ岩高剣道部



四ノ宮 昭
(昭49年
岩高卒)

私が岩高で学んだのは、もう五十年も前、当時の高校生活を思い起こすと蘇ってくるのは、やはり必死に打ち込んだ部活動のことです。

所属したのは剣道部で三年間、辛く苦しい稽古に励みましたが、そこで経験した「初」が三つ記憶に残っています。

一つ目は一年生の時に女子が入部した事です。男子の競技と違って剣道に三人の女子が入り、初心者でありながら、男子と同じ練習に取り組み続け、女子剣道部の第一歩を歩きました。

二つ目は二年生の夏、県民大会で初めて「決勝」の舞台に立つことが出来ました。対戦相手は常勝小牛田

農林、結果は全敗でしたが、初の東北大会進出につながりました。ここで東北大会での珍事として、対福島農高戦の試合中に主審が急に試合を止め、私の竹刀を点検をしまいました。すると「竹刀を計量してない」と言われ、試合途中で計量に行くことになってしまいました。

最後に三つ目の初は三年生の時に
第一回栗原・登米地区総体が開かれ
たのですが、大会の初代優勝校にな
ることができました。でも春の高校
総体では予選で仙台育英に大将戦の
すえ敗れ、敗退となり三年間の活動
を終えることとなりました。

小牛田農が18連勝

男子高校

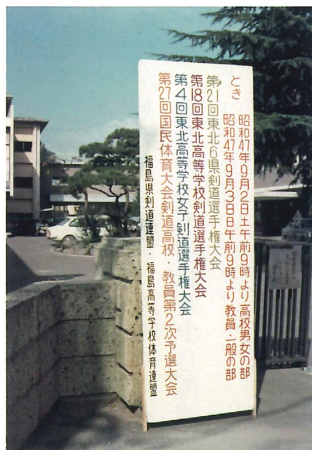
劍道

(仙台三體育館)

[illegible]

試合では常に上位にいることはできず、浮き沈みが激しかったが忘れることができない三年間でした。

先日、「いいじゃん岩高」で剣道部の活動紹介を見ることができ、とても頼もしく感じていました。今後の活躍を期待するとともに、母校が地域に根差した学校として発展してほしいと願っています。



世の中、
なんとかなる



及川 正
(昭和56年
岩高卒)

昭和五十三年四月に入學し、三年間大変お世話になりました。入学早々、部活動は卓球部に入部し、応援団にも在籍いたしました。応援団では、一週間で校歌、凱歌、応援歌を覚えさせられ、一年生が昼休み校庭に集合した応援練習があり、炎天下で正座して練習している同級生の背後から水かけをしたのは実は私でした。同級生の皆様冷たい思いをさせて大変申し訳ありませんでした。体育祭の時は、棒倒しという競技があり、一年生は棒を守り、二年生は守備、三年生は攻撃とクラス分けでの対抗戦でしたが、どう言う訳なのか三年生に混ざり、攻撃陣に加えられ、棒によじ登ったときに二年生の守備の方に運動着をボロボロにされがっかりしたこともありました。三年生の時には、文化祭実行委員長になり、歴代の実行委員長は卓球部から選出されており、実行委員長挨拶

では必ずアカペラで歌を歌うことになっていました。当然、私も歌う覚悟をし、「世の中、なるようにしかならない」という割り切った思いで、歌に挑戦いたしました。その頃から「世の中、なるようにしかならない」という思いが、今の私の基本姿勢になっていきます。今思えば、高校生活は好き勝手に過ごさせていただいたと感謝しております。様々な人間関係や職場環境によって、体調を崩されている方が多くいる中、「世の中、なるようにしかならない」という思いで過ごしてきたせいかなんとか体調も崩さず元気で過ごしております。勝手気ままな投稿でしたが、岩ヶ崎高校での経験により今の自分の基礎があるものと思っております。最後に、同窓会の皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



近況報告



小野寺 美智
(平5年 岩高卒)

高校生だったあの頃から三十年以上も経つとは時の流れは早いものです。平成五年に岩ヶ崎高校を卒業し今年で五十一歳になりました。子供達も成人し、ちょうど人生をふり返り、今後の目的や過ごし方を考えていたとき、この「岩ヶ崎高等学校同窓会報」への依頼をいただきました。薄れそうな記憶をアルバムを見ながらたどっていくと、まず思い出されるのは「ぐりでん」です。当時は電車が通っていて毎日学生でいっぱいでした。冬になると岩ヶ崎に近くにつれ窓から見える景色が吹雪に変わっていく様は何度もおどろかされた事を覚えています。又、通学中の友達との他愛もない話がとても楽しくあつたという間に時間がたつてしまっていました。学業の方では、英語が好きで選択教科も受けられるだけやっていました。知らない事を学んで身につけていく事が私のモチ

ベーションを上げていったのだと思います。これを書きながら気づいたのですが、今でも語学を学びたい気持ちがあるようです。途中でやめてしまった英語と中国語を少し再開してみようかと思っています。

卒業後は結婚して専業主婦になりその後は会社に勤めておりましたが、三十九歳の時に会社を設立いたしました。不動産、保険系、飲食店などを営んでおります。出逢った皆さんに支えられ今日までやってこれました。子育てを無事におえる事ができたのも関わって下さった皆さんのおかげです。少しでも恩返しができるように、現在は仲人士の資格を取得し、先ほどの内容に加えて婚活のお手伝いをさせていただいております。今回このような機会をいただきましてありがとうございます。皆様の御多幸をお祈りいたします。



くりでんのタブレット交換
(旧栗駒駅)

近況報告

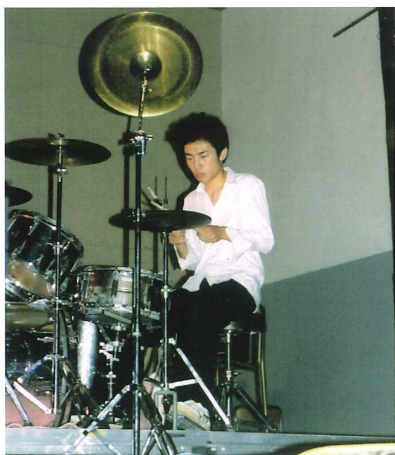


二階堂 真悟
(平14年 岩高卒)

若柳出身の私は卒業後、郵便局に就職。在職中に、ご当地ヒーロー「クリハライザー」を立ち上げ、現在は独立し、「本のヒーロー」ダクシオン」として全国の図書館を巡り、子どもたちに読書の楽しさを届ける活動の他、YouTube 運用代行などをしています。

当時の思い出として文化祭では、所属していた吹奏楽部での演奏の他、有志バンド、ギター部の助っ人、後夜祭の司会など出まわっていました。(笑) そんな私が、昨年はご縁あって、生徒の探究学習に関わらせていただいた他、岩高祭で在校生や先生方を巻き込み「ヒーローショー」を企画・上演しました。

悪役は先生、ヒーロー&司会は生徒が演じるという、私にとっても初挑戦のショーでしたが、大成功に終わりました！後から先生に伺ったところ、当初準備していた席数では足



りず、急ぎよ増席。最終的に一〇〇名以上の方にご来場いただきました。ショーは岩高の魅力を分かりやすく伝える目的で実施し、事前に生徒から聞いた「先生と生徒の距離が近く相談しやすい」「地域とつながる体験ができる」などをストーリーに織り交ぜました。

来場者アンケートには「岩高に入りたいと思った」「思っていたことを表現してくれて嬉しかった」といった声が寄せられました。校内発表ではマスクを外して正体を明かしてもらい、拍手と驚きの声が沸き起こったのも印象的でした。

卒業して二〇数年経った昨年、在校生の方と同じステージに立てたことは感慨深かったですし、ご要望があれば、パワーアップして再演したいと思っています。

この企画を実現できたのも、ご許可いただいた学校、そしてご協賛くださった皆様のおかげです。この場をお借りして感謝申し上げます。

近況報告



千葉 俊太郎

(平20年
岩高卒)

岩ヶ崎高校を卒業してから、早いもので十七年が経ちました。

卒業後、福島大学に進学し、その後、明治大学法科大学院に進みました。大学で法律科目を履修するうちに関心を持ち、弁護士を目指して司法試験の勉強を続けていましたが、三度目の受験でなんとか合格することができました。現在は仙台市内の法律事務所で弁護士として働いており、今年で七年目になります。取扱業務としては、民事事件、家事事件を幅広く取り扱っています。

日々、相談者・依頼者の方のお話を伺いながら、問題解決に取り組むなかで、責任の重さを痛感しています。これまで司法試験の受験勉強や

弁護士業務のなかでつらいこともありました。高校時代の剣道部で培った体力が受験勉強や今の仕事にも生きていると感じることが少なくありません。高校時代の剣道部では、中村純悦先生、佐藤澄隆先生、相澤佐智子先生に指導いただき、剣道の面白さ、奥深さを学びました。大会での成績は思ったようなものは残せず、悔しさが残りましたが、卒業後、大学でも剣道を続けることができたのは先生方のご指導のおかげです。

また、担任の田邊智洋先生は、英語が苦手な私にも丁寧に教えてくだ



さり、当時いただいたアドバイスや励ましの言葉は今も糧としています。岩高の同級生とは卒業後も連絡を取り合っており、時々会い、近況の報告や思い出話をしています。今後は仕事や社会活動を通じて、栗原・宮城の発展に貢献していきたいと思っています。

最後に、岩高同窓会の皆様の益々のご発展とご活躍を祈念申し上げます。

近況報告

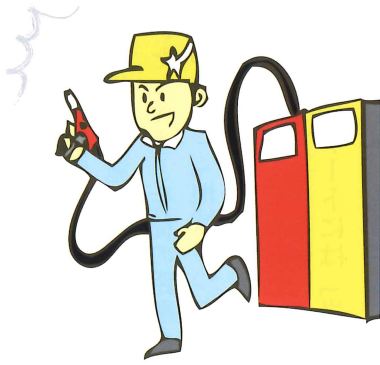


鎌田 和貴

(平6年
鶯工高卒)

平成六年三月に、鶯沢工業高等学校を卒業してから三十年を過ぎ、色々な職業を経験し、尚且つ三度の災害を奇跡的に回避し、今は地元のガソリンスタンドに勤務しています。

学生時代を振り返っても、あまり良い思い出はなく、馬鹿な事ばかりしていた事が記憶に残っています。部活は柔道部でしたが、真面目に活動したわけではなく、気楽に、やれ



ればと言う気持ちで活動してしました。
 今考えてもよく卒業出来たと思う事ばかりです。母校である鶯沢工業高等学校はもう無いですが、思い出が消える訳ではありません。又、今までの職歴を振り返っても大切な事は、人との繋がりが大事だと思っています。
 今を生きる私たちは、日々を大切にすれば良いと思い、今も自分に出来る事をしていくだけです。
 地域貢献は、上手く出来ている訳ではないですが一応、消防団に所属して、頑張っています。
 これからも、自分なりに邁進したいと思います。
 同窓会の皆様の益々の活躍をお祈りしております。



生徒会長

三浦 来心愛

在校生 活動の様子



岩ヶ崎高校は、昨年よりも新入生が増加した栗原市内で唯一の学校です。

そのきっかけは、軽音楽部の全国大会出場といった部活動での活動や地域の方々との交流が増えたことだと感じています。

昨年の文化祭では、生徒がヒーロー役やMCを、先生が悪役を務めるヒーローショーを実施しました。

内容は、岩高のイメージを悪く伝える悪者「ムーチ(無知)」と、岩高は楽しい学校だ!という思いを広めるヒーロー「ダクシオン」との戦いでした。

一般公開では、ヒーローショーの効果もあり、小さなお子さんや近所の方々まで幅広い世代の方々が来場

し、岩高の魅力を知っていただく機会となりました。ちなみに、ダクシオン役を務めた方は岩高のOBです。さらに「パイセン」こと三浦大樹さんをはじめとする卒業生の協力により、地域向けのeスポーツ大会も開催されました。

私達は生徒数の減少という課題に向き合いながら、地域の方々とのつながりを大切にしていこうと思えます。また、これらの活動をさらに良いものにしていくよう、日々努力を重ね、自分自身の成長にもつなげていきたいと考えています。

応援よろしくお願いします。



バレーボール部の活動



バレーボール部部長

木村 夏月

私たちバレーボール部は、三年生三人、二年生一人の四人で活動しています。普段は学年の壁を感じることも無いほど仲良く練習しています。現在は、五月の支部総体と六月の県総体に向けて平日は四人で練習し、休日は合同を組ませていただいている中新田高校さんと練習しています。去年までは合同を組まなくても試合ができる人数でしたが、今年は人数が足りなく合同という形になりましたが中新田高校の顧問の先生やコーチの方の指導もあり充実した練習ができています。全員揃った練習が多くはありませんでしたが、一回一回の練習で、強化点や改善点を見つけ、次の練習や試合で意識して動くということを繰り返し重ねていきました。

今年の支部総体は大崎地区での出場较去年までとは違う環境での大会になります。慣れない環境での試合を貴重な体験と考え多く学んできた



いと思います。

私たちは練習試合、大会を含めてまずは一勝をするという目標で取り組んできました。練習試合では一勝という目標を達成できたので、最後の大会で一勝できるように努力し、楽しんで試合ができるように頑張りたいと思います。

人数も少なく、合同チームという形で活動ができていた私たちですが、この環境が当たり前ではなく両高校の先生方、多くの支援のおかげでバレーができています。私たちを指導してくださっている先生方、チームメイトに感謝して試合に臨みたいと思います。

軽音楽部の活動



軽音楽部部長

高橋 真衣

私達軽音楽部は、三年生二人、二年生四人、一年生七人の計十三人で活動しています。普段は総文祭や岩高祭、その他のイベントでのステージ演奏に向けて、それぞれ練習しています。

昨年の十二月二十二日に行われた第四回全国軽音楽部大会スニーカーエイジでは自分達の練習の成果を十二分に発揮し、岩高らしい演奏ができたと思います。岩高OBの同窓会の方々からたくさん支援を受け、部員や先生方と絆を深める最高の思い出になりました。スニーカーエイジに参加できたことは軽音楽部全員の誇りです。支援をしてくださった皆様、本当にありがとうございました。

また、一昨年に続き二年連続で全国大会に進んだことで、ミヤギテレビのOH! バンデスの放送やTBCのラジオ放送で地域の方々に岩高軽音楽部のことを知ってもらった機会が

できました。初めてのテレビやラジオの取材で緊張しましたが、堂々とした態度で大会への思いを伝えることができました。

昨年はイベントに呼んでいただけのことも多く、一、二年生も場数を踏み人の前に出て演奏することに慣れることができました。軽音楽部のことを入部前から知っていた新入生がいたので、今年も活動に積極的に参加したいです。

今後も部員全員でお互いを高め合い、佐藤圭先生、道塚勇先生の指導・サポートのもと頑張りますので応援よろしくお願いします。



同窓会入会式

同窓会事務局 高橋 恵美

令和 7 年 2 月 28 日、同窓会入会式が本校視聴覚室を会場に開催されました。蘇武会長はじめ本部役員 2 名、東京支部から長沼支部長にご参加いただき、卒業生 25 名を本同窓会へ迎え入れることができました。その後、新入会員を代表して伊藤聖渚さんが宣誓を述べ、学年幹事の委嘱状交付も行われました。また、卒業記念品として同窓会より卒業証書ホルダーが卒業生全員に贈られました。卒業生のさらなる活躍を期待しております。



『岩ヶ崎高校 HP』



同窓会協力金振込方法について

同窓会への協力金お振込については、岩ヶ崎高等学校 HP 内「岩高同窓会」のページにて詳しくご案内差し上げております。QR コードを読み込んでご確認ください。

インターネットバンキングを利用してお振込の場合は、下記口座までお願いします。

(なお可能な限り、お振込依頼人の最後に卒業年をご記入ください)

■ ゆうちょ銀行 ■ 二二九支店

■ 当座預金 ■ 0061387 (口座番号)

■ 宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会 (名称) ※必ず振込先をご確認ください。

『協力金振込方法』



同窓会総会のお知らせ

令和七年度同窓会総会が次の日程で開催されます。

日時 令和七年八月二日(土)
午後三時より

会場 ベルデイ栗駒

会費 三千円

◎問い合わせは、岩ヶ崎高校同窓会事務局へ
電話

0228-45-2266

「書籍寄贈について」

昭和四十九年卒のOBで作家の宮嶋淳四朗さん

(ペンネーム)

から、デビュー作「高卒 竜馬がゆく」の書籍寄贈の申し出がありました。

頂いた小説は、本年度の同窓会総会の参加者の希望の方に差し上げる予定です。

小説のあらすじ

高卒の西郷竜馬が大手電機会社に入社し、持ち前の頓智とハツタリで様々な難局を乗り切っていく物語です。

進路状況

進路指導部長

今野 志麻

進路状況は下記のとおりです。休日も平日同様自主的に学校で勉強したり、放課後も自分の納得のいくまで面接練習をするなど最後まで志高く努力を重ねる姿が印象的な学年でした。その結果、国公立大学においては過去最高となる十一名の合格者、私立大学においても、多数の合格者を出すことができました。また、公務員・民間就職共に100%の合格率となりました。

本校は令和五年度より地域進学重点校改革推進事業の北部地区改革推進校として、探究的な学びの改革を推進しています。特に、本校では二名の地域コーディネーターを配置し、地域で御活躍されている皆様に探究的な学びを支えていただいております。学校だけでは体験できない教科横断的で実践的な学びを充実させることができました。この経験から得た気付きや学びを進路達成に大いに生かすことができました。

今年度も、地域の皆様、同窓生の皆様と共に生徒達の挑戦を支えていきたいと考えております。同窓会員の皆様の一層の御支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

令和 6 年度卒業生進路状況 (令和 7 年 3 月 31 日現在)

国公立大学

大学	学部	学科・専攻	合格者数
弘前大学	医	保健・検査技術	1
山形大学	社会共創デジタル		1
岩手大学	理工	電気電子・情報通信	1
岩手大学	教育	学校教育教員養成課程・小学校教育	2
室蘭工業大学	理工(夜間主)	創造工	1
名寄市立大学	保健福祉	栄養	1
青森県立保健大学	健康科学	社会福祉	1
青森公立大学	経営経済	経営	1
岩手県立大学	ソフトウェア情報	ソフトウェア情報	1
長野県立大学	健康発達	こども	1

合計 11

国公立短期大学

短期大学	学科・専攻	合格者数
岩手県立大学宮古短期大学部	経営情報	3
会津大学短期大学部	食物栄養	3
	幼児教育・福祉	1
旭川市立大学短期大学部	食物栄養	1
静岡県立大学短期大学部	こども	1

合計 9

大学校

短期大学	学科・専攻	合格者数
東北職業能力開発大学校	電子情報技術	1
	電気エネルギー制御	1

合計 2

私立大学

大学	学部	学科・専攻	合格者数
東北学院大学	経営	経営	1
	工	電気電子	1
	情報	データサイエンス	1
東北医科薬科大学	薬	薬	1
宮城学院女子大学	現代ビジネス	現代ビジネス	1
	学芸	日本文	2
東北生活文化大学	美術	美術表現	1
仙台青葉学院大学	看護	看護	1
東北芸術工科大学	デザイン工	企画構想	1
岩手保健医療大学	看護	看護	1
東洋大学	経済	総合政策	1
	福祉社会デザイン	社会福祉	3
日本大学	工	情報工	2
文教大学	人間科学	人間科学	1
	情報	データサイエンス	4
国際医療福祉大学	薬	薬	1

合計 23

高等看護専門学校

学 校 名	合格者数
仙台医療センター附属看護専門学校	1
石巻赤十字看護専門学校	1
岩手県立一関高等看護学院	1

合計(延べ) 3

公務員

宮城県職員(学校事務)	1
栗原市職員(行政)	1

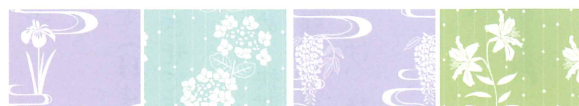
合計(延べ) 2

民間就職

勝野製菓株式会社	1
----------	---

合計 1

卒業生	25名
-----	-----



令和6年度 会計決算書報告 令和7年3月31日現在

○ 収入合計	1,486,970 円
○ 支出合計	787,133 円
○ 差引残高	699,837 円 (次年度へ繰越)

1. 収入の部

項 目	決 算 額	摘 要
1 入 会 金	90,000	3,600 円 × 25 名
2 協 力 金	718,000	306 名
3 前年度繰越金	480,717	
4 雑 収 入	198,253	積立定期解約金ほか
合 計	1,486,970	

2. 支出の部

項 目	決 算 額	摘 要
1 卒業記念品	35,750	卒業証書ホルダー
2 支部助成費	100,586	東京支部、仙台支部へ
3 旅 費	60,340	東京(2名)、仙台(3名)
4 本部総会費	10,000	総会補助
5 会報印刷費	176,880	2,400 部
6 入会式費	0	
7 事 務 費	331,894	
本部事務費	11,030	各種郵送代ほか
振込手数料	67,787	
会報送付委託料	253,077	サラトへ
8 役員会費	7,110	会議用お茶等
9 慶 弔 費	780	弔慰レタックス
10 積 立 金	0	
11 雑 費	63,793	強歩大会応援費ほか
合 計	787,133	

卒業年度別協力金の協力者内訳

S20	1 人	S48	9 人	H13	2 人
S21	0 人	S49	6 人	H14	2 人
S22	0 人	S50	4 人	H15	1 人
S23	0 人	S51	4 人	H16	0 人
S24	0 人	S52	4 人	H17	0 人
S25	0 人	S53	8 人	H18	1 人
S26	4 人	S54	8 人	H19	0 人
S27	5 人	S55	9 人	H20	3 人
S28	2 人	S56	5 人	H21	2 人
S29	6 人	S57	0 人	H22	1 人
S30	7 人	S58	5 人	H23	0 人
S31	5 人	S59	2 人	H24	1 人
S32	4 人	S60	3 人	H25	2 人
S33	6 人	S61	1 人	H26	2 人
S34	7 人	S62	1 人	H27	1 人
S35	8 人	S63	1 人	H28	0 人
S36	7 人	H01	2 人	H29	1 人
S37	19 人	H02	0 人	H30	1 人
S38	10 人	H03	0 人	H31	1 人
S39	2 人	H04	1 人	R02	1 人
S40	12 人	H05	4 人	R03	2 人
S41	9 人	H06	1 人	R04	2 人
S42	6 人	H07	1 人	R05	1 人
S43	13 人	H08	3 人	R06	0 人
S44	4 人	H09	0 人	現職員	0 人
S45	12 人	H10	0 人	旧職員	21 人
S46	8 人	H11	2 人	驚 工	4 人
S47	10 人	H12	2 人	一般個人	1 人
(一人2,000円～10,000円)				合計	306 人

協力金 718,000 円 - 振込手数料 67,017 円 = 合計 650,983 円

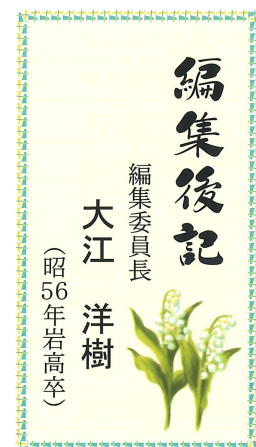
お願い 同窓会の運営資金が逼迫しています。円滑な運営を図るためにも、皆様からの協力金をお願いします。

本年も大勢の皆様から多大なご援助を賜りました。厚くお礼申し上げます。

母校の発展のためにと皆様から寄せられる協力金ですが、今年から一口三千円になります。協力金の減少傾向を改善すべく昨年の総会で決意いただきました。昨今の物価上昇の中、大変心苦しいのですが、建学の精神「尚志育英」を基に研鑽に励んでいる在校生、母校を支える為にもご理解、ご協力をお願いいたします。

送金方法も従来の郵便局やコンビニに加え、スマホからの送金もできるようになりました。今後も同窓会活動をより一層積極的に行っていきたいので、お知り合いへの勧誘や重口のご協力をぜひともお願い申し上げます。

皆様方のご健勝をお祈りし、ご支援のお礼といたします。



戦争終結の目処がなかなかつかぬ世界情勢と、物価高が続く不安定な昨今、今号も無事、発行にまでこぎつけました。

先生方のご配慮により、新「尚志館」での編集委員会。各委員、個人の活発な意見交換により、充実した内容になっているのでは、と自負しておりますが、ご意見、寄稿希望等、是非お待ちしております。

前号にて編集委員の名前が、菅原厚子(H4)↓菅野厚子(H4)の誤りでした。改めて訂正させて頂き、お詫び申し上げます。

いつもながら市長様はじめ、快諾して頂きました寄稿者の皆様、先生方、会員各位に感謝を申し上げます。後記と致します。

